

第3学年 図画工作

第3学年の学習到達目標

- (1) 豊かな発想や創造的な技能などを働かせ、その体験を深めることに関心をもつとともに、進んで表現する態度を育てるようにする。
- (2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、作り出す能力、デザインの能力、創造的な工作の能力を伸ばすようにする。
- (3) 自分たちの作品や身近にある作品、材料のよさや美しさなどに関心をもって見るとともに、それらに対する感覚を高めるようにする。

第3学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	ためしながら	3年生で学習する図画工作のめあてを知り、その活動内容に興味をもつ。掲載作品や情景写真などを見ながら、個々の工夫の面白さや大切さについて気づく。	図画工作の学習で大切なことは何かを話し合う。「ぞうけいずかん」や「いろとようぐのホームページ」などの見方や使い方を知る。
	きせつの中で	季節が感じられる材料や場所を見つけたら、考えたりして楽しもうとする。季節のよさや感じたことの表し方を考えたり、試したりする。	季節を感じる材料を集めたり、場所を見つけたりする。材料や場所の特徴を生かしたり、今までの材料や方法を組み合わせたりして表す。
	「いざやカブかん」のお面作り	歌舞伎の面の例を見て、楽しく面作りに取り組むことができる。	歌舞伎独特の面の例を見て参考にしながら、自分の面を作る。
	心キラリ	心に残った身のまわりのできごとの一場面を絵に表す。印象的なできごとの感じを効果的に表すために、まわりの様子などを工夫して表す。	日常生活の中から、忘れられない感動的な場面を思い出す。人や周囲の様子などの表したいことが伝わるように、場面やかき方などを工夫して絵に表す。
	くっつけくっつけ	粘土をつけ足しながらできる空間の変化を楽しもうとする。粘土の特性を生かしながら、自分で想像した内容をもとに作品にする。	粘土の塊で土台をつくり、いろいろな形の粘土をつけたり、足したりする。つくり出した形を見直したり、どのようなつけ方がよいのか考えたりしながらつくる。
	風パワーぜんかい	風の力で動く車を、身近な材料を使ってつくる楽しさを味わう。車の動きを試しながら、風受けやタイヤなどを工夫してつくる。	材料を組み合わせ、動きを試しながら風受けや車体を楽しく飾る。できた車を動かしながら、美しさや面白さの感じなどを話し合う。
グルグルかくかく	線のリズムに関心をもち、その動きを楽しもうとする。表し方を工夫したり、描画材を選んだりしながら、発想したことを絵に表す。	からだの動きと一体化させながら、いろいろな線を引き、いろいろな表し方で絵に表す。自分の表し方に合わせて描画材を選び、その特徴を生かす。	
後期	そのときの気もちを大切に	物語やお話に登場する人やものなどから、楽しんで想像を広げて絵に表す。絵に表したい場面の思いや様子を、自分なりの表し方で工夫する。	物語やお話を聞いたり読んだりしながら、絵に表したい場面を想像する。表したい場面に合わせて画用紙や描画材料を選び、表現方法を工夫して絵に表す。
	ねん土でお話	様々な技法を生かしながら、考えたお話を粘土でつくる。	粘土にいろいろな操作を加えることで、空間をさまざまに変化させることができることを知る。
	だんボールのへんしん	だんボールを手でちぎって、いろいろな形をつくり、材料の面白さに気づく。思いついたことをもとに、かき方やつくり方を工夫して表す。	だんボールの特徴を生かしながら、絵に表す、楽しい形をつくるなど、思いついたことをもとに、かき方やつくり方を工夫して表す。

	切って切って トントントン	のこぎりを使い、木をいろいろな長さに切って楽しもうとする。 切った木を思いのままに、つないだり積んだりして表す。	のこぎりを使って、木を適当な長さに切ったり、釘や金づちを用いたりして工夫しながら木をつなげる。 色や飾りをつけ、思いをふくらませながら丈夫につくる。
	広がれ生きものワールド	こんな生き物がいたら楽しいだろうなと想像しながら版に表す。 材料を生かして版をつくり、色の効果を工夫しながら、刷ったりかき加えたりして表現を試みる。	版づくりや刷り方などの方法を知り、版に用いる材料の生かし方などを考え、版をつくり、刷る。 他の描画材でかき加えたりする。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。</p> <p>【造形への関心・意欲・態度】 自分の思いを表す体験を深めることに関心をもつことやつくったものなどに関心をもってみるなど、進んで造形表現活動を楽しみ、その喜びを味わおうとする。</p> <p>【発想や構想の能力】 見たことや感じたことなどをもとに想像力を働かせ、豊かな発想をしたり、つくりたいものの美しさや用途を考えるなど構想したりする。</p> <p>【創造的な技能】 手を十分働かせたり、体全体の感覚を生かしたりしながら、つくりだす能力などを働かせて、自分なりの技能や表し方を工夫する。</p> <p>【鑑賞の能力】 自分たちの作品や身近にある作品などのよさや美しさ、感じの違いなどに関心をもって見る。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>学習への関心・意欲や活動過程における発想力や構想力の重視 これまで作品や技能を主に重視してきましたが、材料集めやアイデアのよさ、材料のよさや美しさなどを考慮した構想力を重視して評価します。</p> <p>多面的な評価 作品だけでなく、行動観察や毎時間の伸び、自己評価や相互評価、疑問や願いなど様々な面から評価します。</p> <p>自己評価・相互評価の重視 学習の仕方や作品の完成度など、児童が評価したものを重視します。また、友達のよさを認め合う態度やかかわりも評価します。</p>
---	---

特色ある学習方法

<p>(1) 身近にある自然物や人工材などに進んで働きかけ、その形や色などの特徴から自由に発想し、体全体を働かせ思いのままに進める造形遊びをします。</p> <p>(2) 初めに表したいことやつくりたいもののイメージや構想があって、それをもとに材料や方法を選び、描いたりつくったりする表現活動を行います。</p> <p>(3) 創造されたもののよさや美しさなどに対する共感やあこがれの感情に基づいて、ものや人との様々な関係を積み上げることで、感じ方や見方を深めていく鑑賞活動を行います。</p>

使用教材等

<p>教科書 「図画工作 3・4 上」(日本文教出版)</p> <p>材料としては、木切れ、段ボール、厚紙、空箱、空き容器、布、紙、ひも、小石、貝殻など、身近にある物もふくめて使用します。</p> <p>用具としては、水彩絵の具、カッターナイフ、小刀、使いやすいのこぎりなどのほかに、前学年までに使用した粘土、クレヨン、パス、はさみ、のりなどを使用します。</p>
--

留意事項

<p>(1) 子どもたちは、目の前に材料や用具があると、「触ってみたい」「使ってみよう」という欲求や好奇心を働かせます。そして、ものに働きかける経験から感じ取った意味を組み立てて、自分なりの感じ方や見方をもつようになります。そうする過程では、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさを味わうことができるのです。そんな頼もしい子どもたちに育てていくために、手を働かせてものをつくる機会を豊かに保障してあげてください。</p> <p>(2) 身近な材料(ビニール袋、新聞紙、箱など)を使用し、造形教育を行います。学年だよりなどで事前にお知らせしますので準備をお願いします。</p>
